



SDカードについて

SDカードを利用して、BANKの全ての内容を読み込んだり、BANKを保存したり、単独のPRESETをインポートまたはエクスポートすることができます。SDカードのメニューに入るには、SYSTEMを選択します。ENTERボタンを押すと、SYSTEM SETTINGメニューが表示されます。

ファイルを選択してENTERボタンを押し、目的の操作を選択します。

ふたたびENTERボタンを押して、特定のデータまたはBANKを選択します。

システム・メニュー:

FILE:
STORE TO SD
RECALL FROM SD
EXPORT PRESET
IMPORT PRESET
DELETE PRESET

AMP MODE:
STEREO
MONO/BRIDGE

MIDI:
MIDI ADDRESS
PRESET/PATCH MAP

FILE
このメニューは、バンクの内容や単独のプリセットを保存(STORE)または呼び出す(RECALL)時に使用します。

AMP MODE
このメニューでは、内蔵アンプのモードをSTEREOまたはMONO (BRIDGE)に設定します。

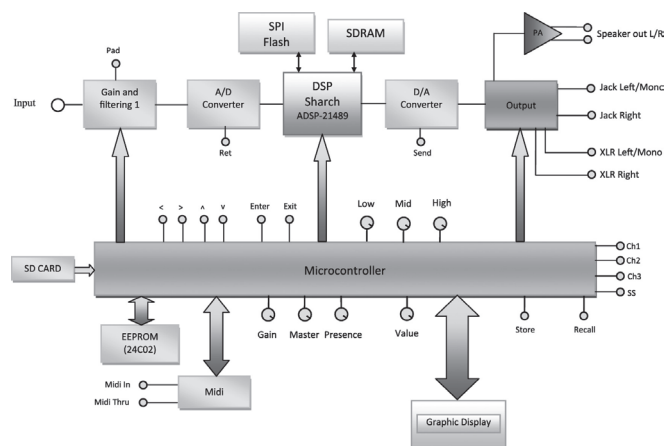
MIDI
このメニューは、MULTIAMPのMIDIアドレスを設定したり、PATCH NUMBERをMULTIAMPのプリセット・マップに割り当てたりするのに使用します。プログラム・チェンジ・ナンバーの#90はタップ・テンポ用です。

FIRMWARE UPDATE
このオプションを選択すると、SDカード経由でファームウェアのアップデートをしたり、現在のファームウェアが最新のバージョンかどうかを確認したりできます。詳細については、ウェブサイト(www.dvmark.it)の当該セクションを参照してください。

仕様

チャンネル数:3
コントロール:GAIN、LEVEL、PRESENCE、MASTER
イコライザー:BASS、MID、HIGH
スピーカー出力:
1/4標準ジャック、モノラル出力4-16Ω、2個
ノイトリクス社スピコン・ジャック、ブリッジ出力8-16Ω、1個
出力:
250+250W@4Ω、150+150W@8Ω
または85+85W@16Ω(ステレオ・モード)、500W@8Ω
または300W@16Ω(ブリッジ・モード)
その他の機能:
バーチャル・アンプ
スピーカー・キャビネット
およびマイクロフォン・シミュレーター
内蔵エフェクト
外部メモリー (SDカード)
寸法:486 x 89 x324mm
重量:4.3kg
電源:100、120、230または240V、50/60Hz (電源電圧は、販売地域に応じて工場出荷時に設定されています)

ブロック・ダイアグラム



MULTIAMP



取扱説明書

DV Mark 日本総代理店: パール楽器製造(株)
〒276-0034 千葉県八千代市八千代台西10-2-1
TEL: 047(484)9111(代) 営業部 TEL: 047(450)1113
改良のため予告なく仕様の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。
2013年6月作成



マルコ・デ・ヴァージリスからのごあいさつ

この度は、DV Mark をお選びいただき、ありがとうございました！

あなたがギター・アンプの歴史における新たな1ページに私たちと共に参加してくださり、私たちはとても嬉しく思っています。私たちは、素晴らしいトーンや信頼性、豊富な機能と柔軟性、軽量化といった、ベーシストのニーズにより良い形でお応えするためのテクノロジーを採用し、10年を待たずして Markbass を世界一流のブランドに育てることに成功しました。今度はいよいよ、ギタリストの番です！

ギタリストがここ20年～30年来愛好してきたクラシックなトーンは、大いに尊重する価値があります。私たちも、そういったサウンドに大きな敬意を払ってアンプを設計しました。私たちは、ギターに革命を起こそうとは思っていません。なぜなら、ギタリストはそれを求めていますし、その必要も感じていないからです。しかしながら、クラシックなギター・アンプには、ギタリストの要望に応えるために、大幅な改良を施す余地がいくつかあります。

その第一は信頼性です。私たちはアンプの製造を100%イタリアで行ない、最高技術による検査および品質管理設備を整え、最高品質の部品を使い、アンプや真空管の状態を簡単にモニターできる革新的な技術を開発し、品質基準の高さを誇っています。自分のアンプは信頼できるものでなければならない・・・私たちはそのことを良く理解しています！

第二は柔軟性です。その一例が、DV Mark に採用された特許出願中のコンティニューアス・パワー・コントロール（連続電源制御：出力40Wのヘッドおよびコンボに採用）です。これはアンプの出力を連続的に変化させる機能で、1Wから40Wの範囲で自由に設定できます。すなわち、どんな音量でも好みのトーンが得られるので、大規模なコンサートから小規模なライブ、あるいは寝室での練習まで、あなたのトーンを犠牲にしなくても済むわけです！

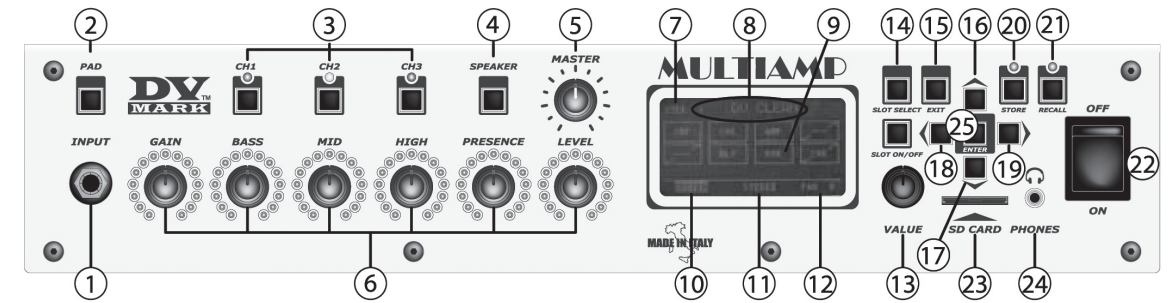
第三は軽さです。皆さんの多くは、自分が12インチ・スピーカー2発あるいは4発入りのキャビネットを苦労して運んでいるのを尻目に、ベース・プレイヤーたちが Markbass の軽量の機材を楽々と搬入したり撤収したりしているのをご覧になっているかと思います。しかし、こんどは皆さんが軽い機材の恩恵を受ける番です！演奏の機会が多ければ多いほど、機材の重さは重要なファクターになってきます。わずかな重さで必殺のトーンが得られる DV Mark を知ってしまったあなた・・・もう後へは戻れません。

私たちは、新しくご購入いただいたギター・アンプを楽しく使っていただけるよう、願っております。

どうもありがとうございました。それでは、良い音楽を！

——マルコ・デ・ヴァージリス

フロントパネル



1) INPUT 端子：

1/4インチ標準プラグ付きのシールド・ケーブルで、ギターを接続します。

2) PAD ボタン：

入力を-6、0、+6または+12dB減衰または増幅します。入力信号を減衰させることもできるので、高出力のピックアップやアクティブ回路を搭載したギターなど、出力レベルの高い音源をINPUT端子(1)に接続した時にも対応できます。

3) CH1、CH2、CH3 ボタン：

アンプのモデリングを選択します。

4) SPEAKER ボタン：

ボタンを押すと、キャビネット・シミュレーターのパラメーターに直接アクセスできます。

5) MASTER ノブ：

パワー・アンプに送られる信号の音量を調節します。スピーカーおよびヘッドフォン出力の音量がコントロールできますが、XLRバランス出力の音量には影響しません。

6) GAIN、BASS、MID、HIGH、PRESENCE、LEVEL ノブ：

アンプ・シミュレーターのプリアンプ・セクションをコントロールします。選択したアンプ・モデルのコントロールと同じ機能が再現されます。

7) BANK：

選択されたバンク・プリセットが表示されます。

8) PRESET：

選択されたプリセットの名前と番号が表示されます。

9) SLOT：

このMULTIAMPには、アンプのモデルとエフェクトの組み合わせを7種類、キャビネット・シミュレーターのパラメーターの組み合わせを1種類それぞれ保存できるスロットが用意されています。

10) SYSTEM：

ステレオ/モノの選択や、SDカードから本体のメモリー・バンクにデータを読み込んだり、メモリー・バンクのデータをSDカードに書き込んだりする際に使用する機能です。

11) STEREO：

出力モードの状態を示します。表示はSTEREO（ステレオ：250+250W@4Ω、150+150W@8Ω、85+85W@16Ω）またはBRIDGE（モノラル：500W@8Ω、300W@16Ω）です。

12) PAD：

選択した入力パッドの値(-6、0、+6または+12dB)を表示します。

13) VALUE ノブ：

選択したパラメーターの値を増減するコントローラーです。

14) SLOT SELECT ボタン：

選択したスロットを有効または無効にします。

15) EXIT ボタン：

使用中のファンクションから抜け出す時に押します。

16) 上スクロール（アップ）のボタンです。

17) 下スクロール（ダウン）のボタンです。

18) 左スクロールのボタンです。

BANK 機能選択時に押すと、プリセットが8個分ずつ上にスクロールされます（クイック・サーチ機能）。

19) 右スクロールのボタンです。

BANK 機能選択時に押すと、プリセットが8個分ずつ下にスクロールされます（クイック・サーチ機能）。

20) STORE ボタン：

プリセットを内蔵メモリーに保存する時に押します。

21) RECALL ボタン：

内蔵メモリーのプリセットを呼び出す時に押します。

22) 電源スイッチ：

ON側に倒すと、本体に電源が入ります。使用者の怪我や本体の故障を防ぐために、電源プラグの全ての端子が正しく接続されていることを確認してください。また、DV Mark MULTIAMPは販売される地域の電源電圧に合わせて設定されています。アンプをAC電源に接続する前に、アンプの設定と電源電圧が合っていることを確認してください。

23) SD CARD スロット：

プリセットの書き込みや読み出し、ファームウェアのアップデートに使用するSDカード(FAT32でフォーマットされたもの)を、このスロットに挿入します。

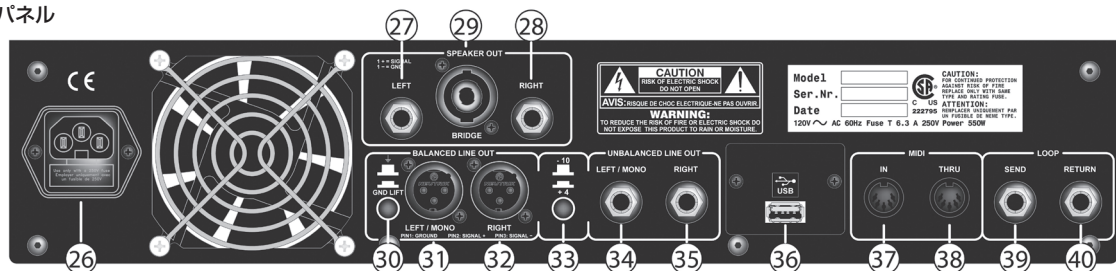
24) PHONES 端子：

ヘッドフォンのステレオ・ミニプラグ(1/8インチ)を接続します。

25) ENTER ボタン：

選択した機能や値を確定する時に押します。

リアパネル



26) AC ソケット :

電源ケーブルを接続するソケットです。電源ヒューズのホルダーも内蔵しています。

27) / 28) RIGHT/LEFT 出力端子 :

パワー・アンプがステレオ・モードの時、左右のスピーカー・キャビネットを接続する端子です。これらの端子にはインピーダンスが4Ω未満のキャビネットを接続しないでください！

29) BRIDGE 出力端子 :

パワー・アンプがモノ・ブリッジ・モードの時には、このスピコン端子にキャビネットを接続します。この端子には、インピーダンスが8Ω未満のキャビネットを接続しないでください！

30) GROUND LIFT スイッチ :

MULTIAMPのXLRバランス出力信号にハムが乗ることがあるとすれば、多くの場合、電源のグラウンドに原因があります。その際にはGROUND LIFTスイッチをオンにすると、その影響を取り除くか、少なくとも軽減できるはずです。

BALANCED LINE OUT 端子

31) XLR LEFT/MONO 端子 :

左チャンネルの信号をミキサーやPAに送るバランス出力です(モノラル接続の場合も、この出力端子を使用してください)。

32) XLR RIGHT 端子 :

右チャンネルの信号をミキサーやPAに送るバランス出力です。

33) 出力レベル・セレクト・ボタン :

+4または-10dBを選択します。

UNBALANCED LINE OUT 端子 :

外部のパワー・アンプなどに信号を送る時などに使用する、アンバランス・ステレオ端子(リアンプ出力)です。

34) LEFT/MONO 端子 :

リアンプの左チャンネルの出力です(モノラル接続の場合には、この端子を使用してください)。

35) RIGHT 端子 :

リアンプの右チャンネルの出力です。

36) USB ポート (保守点検用です)

MIDI 端子

37) MIDI IN 端子

38) MIDI THRU 端子

LOOP端子:外部のエフェクト・プロセッサやエフェクト・ペダルを接続する際に、このルーブ・セクションを使用します。外部機器の接続方法によって、シリアル・モードとパラレル・モードが選択できます。

39) SEND 端子 :

外部エフェクト・プロセッサやペダルの入力に接続します。

40) RETURN 端子 :

外部エフェクト・プロセッサやペダルの出力に接続します。

MULTIAMPの概要

接続モードについて

MULTIAMPはミュージシャンの用途に応じて、様々な接続モードが選択できます。

モノラル接続:リアパネルのBRIDGEスピーカー出力端子を使用します。出力は500W@8Ωまたは300W@16Ωです(8Ω未満の負荷は接続しないでください！)

ステレオ接続:リアパネルのLEFTおよびRIGHTスピーカー出力端子を使用します。出力は250+250W@4Ω、150+150W@8Ωまたは85+85W@16Ωです(4Ω未満の負荷は接続しないでください！)。

P.A.およびスタジオ用の接続:LEFTおよびRIGHTのXLRバランス出力端子を使用します(出力レベルは、+4dBと-10dBの適合する方を選んでください)。

外部パワー・アンプへの接続:リアパネルのLEFTおよびRIGHTのアンバランス出力端子を使用します。

MULTIAMPに楽器を接続したら、PADボタン(2)を押して入力信号のレベルを最適化してください。入力(1)のレベルに対するPADの減衰/増幅率(-6、0、+6または+12dB)は、ボタンを押すとディスプレイに表示されます。レベル・メーターを参考にすると、最適な値が設定しやすいでしょう。PADの値は自動的にそのプリセットと関連付けられます。

それぞれのボタンとENTERボタンでSYSTEMメニューを選び、SYSTEM SETTINGメニューに入ります。AMP MODEを選択してENTERボタンを押し、STEREOまたはMONO BRIDGEのモードを選択します。パワー・アンプのモード(STEREOまたはMONO BRIDGE)は、プリセットとは関連付けられません。

プリセットおよびメモリーについて

MULTIAMPにはメモリー・バンクが8個あり、それぞれが128個のプリセットを持っています。3個のバンクにはファクトリー・プリセット、5個のバンクにはユーザー・プリセットが割り当てられています。

ファクトリー・プリセットは、以下の3種類です。

LIVE MONO:BRIDGEスピーカー端子にキャビネット(4x12"など)を接続する、モノラル・モードのプリセットです。

LIVE STEREO:LEFTおよびRIGHTのスピーカー端子にキャビネット(1x12"を2台など)を接続する、ステレオ・モードのプリセットです。

STUDIO P.A.:P.A.システムやオーディオ・モニターを接続するモードのプリセットです。

5個のユーザー・プリセット・バンクには、自分で作ったプリセットや、ファクトリー・プリセットをコピーして編集したプリセットが保存できます。

プリセットの呼び出しについて

プリセットを呼び出すには、RECALLボタンを押します。ディスプレイに表示された全てのバンクから、アップ/ダウンのボタンで目的のバンクを選択し、ENTERボタンを押すと、バンク内の全てのプリセットが表示されます。好みのプリセットを選択してENTERを押すと、プリセットの音が聴けます。

プリセットのSLOTの組み合わせを確認したり、他のプリセットを聴いたりするには、EXITボタンを押します。

SLOTのメニューから出て、最後に使用したBANKのPRESETメニューに戻る時にも、EXITボタンを押します。

スロット(SLOT)について

スロットは、選択したアンプのモデルやエフェクトの格納場所です。MULTIAMPのプリセット1個あたり、8個のスロットが用意されています。好みや必要に応じて、スロット内でアンプやエフェクトの接続が行えます。

エフェクトは、アンプの前にも後にも接続できます。また、LOOPの SEND とリターン端子を利用すれば、外部のエフェクト・プロセッサやペダルをシリーズまたはパラレル接続で追加できます。外部のエフェクターを接続するポイントは、好きな場所に設定できます。

8番のスロットは当然のことながら、最後に接続されるキャビネットのシミュレーター (CAB SIMULATOR) 専用に割り当てられています。

個々のスロットでは以下のものが選択できます。

NONE:未使用

AMPLIFIER:アンプ(AMP)のモデル

TUBE NINE:チューブ・オーバードライブ

B-DRIVE:ブルース・オーバードライブ

D-PLUS:ディストーション

METAL TONE:メタル・ディストーション

FUZZ RACE:ピンテージ・ファズ

CHR-5:ステレオ・コーラス

WAVE FLANGER

CHORUS PHASER

JC VIBRATO:人気のビブラト

DIGITAL PHASER

REVERB

D-DELAY:デジタル・ディレイ

PATTERN DELAY

THE GATE:ノイズとハムを低減

AMP TREMOLO

RSS COMPRESSOR:自然な効果のコンプレッサー

AUTO WAH

SEND/RETRUN

名前の横のアスタリスク(*)は、そのエフェクトが選択されていることを示します。SLOT ON/OFFボタンで、スロットの使用/未使用を選択します。

アンプ・モデルについて

サウンド作りは、好みのスロットにアンプを割り当てるところから始まります。矢印のボタンでアンプを割り当てるスロットを選択し、SLOT SELECTボタンを押して、SLOTメニューからAMPLIFIERを選択します。アンプのモデルは、以下の3つのリストを参考に、ボタンを押して選択します。

CH1:クリーン・サウンド

CH2:クランチ・サウンド

CH3:ディストーション/リード・サウンド

チャンネルごとに選択できるアンプは、以下の通りです。

CH1 :

TRIPLE 6 CH1
DARKFACE '65 (US)
RECTO (US) CH1
BASSFACE '59 (US)
SLODRIVE (US)
XTC CH1

CH2 :

TRIPLE 6 CH2
TOP 30 (UK)
SLODRIVE (US)
ROCK '75 (UK)
XTC CH2

CH3 :

TRIPLE 6 CH3
RECTO (US)
ROCK 900 (UK)
SLODRIVE (US)
HEAVY '51 (US)
XTC CH3

スロットに割り当て済みのアンプのパラメーターを調節するには(そのモデルにパラメーターが用意されている場合)、ボタンを押してアンプの割り当てられているスロットを選択し、ENTERボタンを押します。

スピーカーの選択について

キャビネット(CAB)を手早く選択するには、SPEAKERボタンを押します。すると、以下のメニューが表示されます。

RESPIRE:キャビネットの空気感や箱鳴りを強調します。

HPF:高音域を抑制します。

LPF:低音域を抑制します。

LEVEL:キャビネット・セクションの音量を調節します。

PHASE-NORMAL/REVERSE:キャビネットに立てるマイクの位相(正相/逆相)を選択します。

MIC MODE:マイクのモデルを選択します。

CAB MODE:キャビネットのモデルを選択します。

MIC POS:マイクを立てる位置を選択します。

好みのオプションを選択して、VALUEノブで好みの値に調節してください。

最新技術を応用したMULTIAMPは、さらに多くのエキサイティングなトーンやエフェクトが追加できます。より詳しい情報は、www.dvmark.itでご確認ください。

サウンド作りの方法について

接続モード(モノラル・キャビネットのLIVE、STEREO、あるいはP.A./Studio)を選択します。

PADボタンを押して、入力レベルに合ったdB値を設定します。多くの場合、0dBが最適です。

EXITボタンを押して、PAD設定機能から出ます。

サウンド作りをする時には、出したいサウンドやエフェクター接続などを決めておくと、エフェクターやアンプを目的に合った形で組み合わせることができます。オーバードライブやディストーションなどの歪み系エフェクターはアンプの前、

コーラスやリバーブといったモジュレーションや空間系のエフェクターはアンプの後に接続するのが望ましいですが、組み合わせや接続については思いのまま、自由に実験してみてください。

それでは、たとえばコンプレッサーとコーラス、リバーブを使ってクリーンなサウンドを作るとしましょう。

まず、アンプのスロットを選択します。アンプの前にエフェクターを2台接続するので(リバーブはアンプの後に接続します)、3番目のスロットを選択します。SLOT SELECTボタンを押してメニューに入り、Amplifierを選択します。これで、アンプが3番目のスロットに格納されました。

次に、CH1、CH2、CH3のボタンでアンプのモデルを選択します。CH1のリストからはBASSFACE '59 (US)を選択し、ENTERボタンを押して確定します。音を出しながら、コントロールノブ(GAIN、BASS、MID、HIGH、PRESENCE、LEVEL)でサウンドを調節します。

P.A.やスタジオ用にサウンド作りをする場合は、キャビネット専用のスロット(CAB)を使用する必要があります。SPEAKERボタンを押して、CAB (Mic Mod、Cab Mod、Mic Pos等)を選択します。ここでは、次のような設定にします。

RESPIRE:ON
HPF:OFF
LPF:OFF
LEVEL:5.62dB
PHASE:normal
MIC MOD:American 57
CAB MOD:2x12 Dark
MIC POS:Off Axis

設定が終わったらEXITボタンを押してCABメニューから出ます。イコライザーを使って、好みのサウンドに調節します。

次に、第1スロットにコンプレッサーを追加します。最初のSLOTを選択します(スロットが未使用になっている場合は、SLOT ON/OFFボタンを押して使用状態にします)。SLOT SELECTボタンを押して、RSS Compressorを選び、ENTERボタンを押して確定します。これでコンプレッサーが接続されました。コンプレッサーのパラメーターを調節するには、コンプレッサーを選択してからENTERボタンを押します。VALUEノブでパラメーターを調節したら、EXITボタンを押してメニューを出します。

さらに、第2スロットにコーラスを追加します。コンプレッサーを追加したのと同じ方法で、CHR-5コーラスを選択します。

今度は、アンプを格納したスロットの後に、リバーブを追加します。手順はコンプレッサーやコーラスを追加した時と同じです。

最後に各パラメーターを微調整すれば、サウンドは準備完了です!

LIVEモードのプリセットでキャビネットを接続する場合は、モノラル、ステレオを問わず、SLOT ON/OFFボタンでCABスロットを未使用の状態にしておく方が良いでしょう。とはいえ、CABシミュレーターを利用したサウンドの色付けも自由に試してみてください。

AMPとDELAY、REVERBの各スロットは、それぞれ1個しか呼び出せないということを、覚えておいてください。

サウンドの保存について

サウンド作りが終わったら、名前を付けてユーザー・バンクの1つに保存します。手順は以下の通りです。

STOREボタンを押すと、BANKメニューが表示されます。USERSバンクを選択して、ENTERボタンを押します。サウンドを保存する場所の番号を選択して、もう一度ENTERボタンを押します。ここで、VALUEノブを使って最大10文字の名前が付けられます。左右のスクロール・ボタンで文字を選び、VALUEノブでアルファベットや数字、記号を選択します。

名前を付け終わったら、ENTERボタンを押して確定すると、バンク・ナンバーとプリセット・ナンバー、プリセット名、信号のルーティング状況が表示されます。これで、プリセットが保存されました!

SEND/リターンについて

外部のエフェクト・プロセッサーやペダルを併用する場合は、LOOPセクションの入出力端子が利用できます。エフェクト・ループの接続はシリーズまたはパラレルが選択でき、ループは信号経路の好きな位置に設定できます。

ループのSEND端子を外部機器の入力端子、ループのRETURN端子を外部機器の出力端子に、それぞれ接続します。

SLOT SELECTボタンを押してスロットを選択し、上下のスクロール・ボタンでスロット・メニューからSEND/RETURNを選択します。ENTERボタンを押して確定すると、外部エフェクターが使用できる状態になります。さらにENTERボタンを押すと、以下のSEND/RETURN/パラメーターが調節できます。

LEVEL:信号レベル

MODE:SERIES (シリーズ:直列)とPARALLEL (パラレル:並列)の選択

パラメーターの設定が終わったら、EXITボタンを押して元のメニューに戻ります。

MULTIAMP その他の接続方法について

MULTIAMPは、他のアンプ・ヘッドのSEND/リターン端子に接続して、外部エフェクト・プロセッサーとして利用することもできます。

出力にはUNBALANCED OUT端子、ミキサーに接続する場合はBALANCED OUTのXLR端子を使用します。

MULTIAMPのINPUT端子と別のアンプ・ヘッドのSEND端子、MULTIAMPのOUTPUT端子とアンプ・ヘッドのRETURN端子を、それぞれ接続します。AMPスロットを未使用の状態に設定して、好みのエフェクトを組み合わせたプリセットを作成します。

MULTIAMPは、単体のパワー・アンプとしても利用できます。その方法は2通りあります。

1.外部リアンプの出力をMULTIAMPのINPUT端子に接続し、MONO BRIDGE用のスピーカー出力にキャビネットを接続します。プリセットの全てのスロットを未使用の状態(SLOT OFF)に設定すると、MULTIAMPはパワー・アンプとして動作します。

2.外部リアンプの出力をMULTIAMPのRETURN端子に接続し、MONO BRIDGE用のスピーカー出力にキャビネットを接続します。

この場合は、SLOTメニューからSEND/RETURNのスロットを選択し、AMPとエフェクターを未使用の状態に設定し、ループの接続はSERIESを選択し、LEVELで出力レベルを調節します。MULTIAMPを単体のパワー・アンプとして使用する場合は、出力500WのMONO BRIDGEモードで動作しているということを覚えておいてください。

安全上の御注意!

この度は DV Mark ギターアンプをお買いあげいただき有難うございました。

- ・使用開始前に、安全のため下記の説明を良くお読み下さい。
- ・お読みになった後は、必ず保存しておいて下さい。
- ・ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守って下さい。
- ・本書では危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。

	警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。
	注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

・本書で使用される絵表示は、次のような意味です。

	警告・注意を促す内容があることをお知らせするものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。
	禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
	行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

- ・製品に記されているすべての注意書きに従って下さい。
- ・長期間使用しないときは必ず電源を抜いて下さい。
- ・延長コードをご使用になる場合は必ず容量に合ったものをご使用下さい。
- ・電源コードは手荒に扱わないで下さい。定期的な断線していないか、あるいはその兆候がないかチェックして下さい。特に両端のモールドの部分に捻れがないか注意して下さい。
- ・電源コードの上には何も置かないで下さい。通路にはコードがかからないように設置して下さい。

- ・キャビネット内の空間、裏面や底面の穴は通気のために設けてあります。穴をふさいだり覆ったりしないでください。十分な空間がないとオーバーヒートの原因になります。本製品をビルトインで設置する場合は、適切な冷却装置を必ずご使用下さい。
- ・長時間大音量で演奏すると、耳に負担がかかり、難聴になる危険があります。やむをえず必要な場合には、耳栓を使用するなどして、自衛手段を講じて下さい。

- ・この製品は水気のあるところでご使用にならないで下さい。
- ・この製品を不安定な台車、スタンド、またはテーブルなどの上に置かないで下さい。製品が落下して故障の原因となることがあります。
- ・付属の電源コード以外でご使用にならないでください。また、製品の裏面に表示してある電圧以外での使用は避けて下さい。

- ・アンプの上にドリンクなどおかないで下さい。こぼれて故障や感電の原因になります。
- ・絶対にご自分でカバーを開けて修理、改造等しないで下さい。製品の内部には高電圧の部分があり大変危険です。必ずお買上になった販売店までお問い合わせください。
- ・下記の場合ただちに電源を抜き必ず修理又は点検に出して下さい。
 - *電源コードまたはプラグが破損した場合。
 - *製品の上に液体がかかった場合。
 - *製品に水や雨がかかった場合。
 - *説明書通り操作しているにもかかわらず正常に作動しない場合。
 - *製品が落下した場合やキャビネットが破損した場合。
 - *音質等性能が著しく変化した場合。

- ・ヒューズを交換する際は、必ず同じ規格の物を使用して下さい。異なった規格の物を使用すると、発火や、故障の原因になります。
- ・ストーブ等の火気の近くには設置しないで下さい。

発火や感電を防ぐため、湿度の高いところや雨のあたるところではご使用にならないで下さい。キャビネットの隙間などから異物を入れたりしないで下さい。内部には専門家以外の方で修理できる箇所はございませんので、異常が発生した場合はお買上になった販売店にご連絡ください。



MULTIAMP NEW FIRMWARE (Version 2.1) のアップデート内容

- 追加アンプ・モデル • CH1 : UK-45 • CH3 : Gun 50
- 追加エフェクト • ボリューム・ペダル • パラメトリック EQ • オクターバー
- 追加キャビネット・モデル • C-BS 112
- ユーザープリセットのイージーストア機能を搭載
 • Store ボタンの長押しで、ユーザープリセットの上書き保存が可能になりました。
- クロマティックチューナーを搭載 (ミュート機能付)
- SD カード・フォーマット・ファンクションを搭載
- コントロール・チェンジ・マップ
 各 SLOT のオン/オフを、プログラマブル MIDI ペダルボード / コントローラーの特定のコントロール・チェンジで割当てることができます。

SYSTEM MENU の MIDI 内の Control Change map を呼び出します。

- ディスプレイ左側の数字が、スロット・ナンバーになります。(この数字は、プリセットが呼び出されて各スロットが表示された状態の時、上段の左から右の順になります。) UP/DOWN ボタンで、スロットナンバーを選択できます。
- ディスプレイ右側の数字が、各スロットに割当てられたコントロール・チェンジ・ナンバーになります。VALUE コントロールで、プログラマブル MIDI ペダルボード / コントローラーから送られてくるコントロール・チェンジ・ナンバーを選択します。
- ENTER ボタンを押して、割り当てを保存します。

■タップ・テンポ

(MULTIAMP のフロントパネルにある) RECALL ボタンを数秒長押ししてください。DELAY エフェクトを選択しているプリセットにおいて、ディレイタイムを設定する TAP TEMPO ファンクションにアクセスできます。

ENTER ボタンを 2 度押すことで、希望するテンポをセットできます。RECALL の LED が、設定されたテンポ速度を示します。

- このファンクションは、MIDI でも可能です。プログラマブル MIDI ペダルボード / コントローラーから MIDI Note ON コマンド (parameter note = 60, velocity > 0) を送って稼働させることができます。

*注意：旧バージョンのファームウェアでは、TAP TEMPO ファンクションは、プログラムチェンジ#90 に割当てされていました。

■ボリューム・ペダル

ボリューム・ペダル・ファンクションはコントロール・チェンジ#27 に割当てられています。

- ボリューム・ペダル付のプログラマブル MIDI ペダルボードを使って、コントロール・チェンジ#27 にファンクションをセットしてください。
- ボリューム・ペダルを割当てたいプリセットのスロットを選んでください。SLOT SELECT ボタンを押して、UP/DOWN ボタンを使って、Volume Pedal を選択して、ENTER ボタンを押してください。Pedal と Range パラメータをお好みに設定して ENTER ボタンを押してください。そして、STORE ボタンを押して、プリセットに保存してください。



Q: PAD はプリセットができますか？

A: PAD のレベル設定は、プリセットごとに個別に保存可能です。

Q: MIDI の OMNI モードについて。

A: MULTIAMP (Ver. 2.1) には OMNI モードの設定はありません。

MIDI ペダルボード / コントローラー等で操作する場合は、SYSTEM MENU の MIDI 内の MIDI address と、ペダルボード / コントローラーの MIDI チャンネルを合わせてください。

MIDI チャンネル (1 ~ 16) が、Multiamp の MIDI address (0 ~ 15) に対応しています。

MIDI address の "0" が MIDI チャンネル "1" に対応します。MIDI address の "1" が MIDI チャンネル "2" になり、以下同様になります。

Q: SYSTEM MENU の MIDI 内の Preset / Patch map とは何ですか？

A: このファンクションで、MIDI プログラム・ナンバーに、Multiamp の特定のプリセットを設定することができます。

ディスプレイの左のナンバーが、MIDI ペダルボード / コントローラーからのパッチ・ナンバー (MIDI プログラム・ナンバー) になります。パッチ・ナンバーは、UP/DOWN ボタンで数値設定ができます。

ディスプレイの右のナンバーが、設定されたプリセット・ナンバーになります。

VALUE コントロールでプリセット・ナンバーを選択します。

ENTER を押して、設定を保存します。

Q: Multiamp を使用中に、操作ができなくなった時はどうすればよいですか？

A: SLOT のパラメーターが設定できない等 Multiamp の操作ができなくなった時は、EXIT ボタンで元のメニューに戻り、改めて RECALL ボタンを押してプリセットを呼び出すことで復帰いたします。

■FIRMWARE のアップデート

- ① DV MARK のウェブサイト (<http://www.dvmark.it>) から、Firmware の Update をダウンロードしてください。(2013 年現在の最新版はバージョン 2.1 です)
- ② コンピューターに SD カードを挿入し、ドラッグ&ドロップで取り込みます。
(この際、SD カードのフォーマットが FAT 32 format であることをご確認ください)
- ③ MULTIAMP 本体フロントにある SD カード・スロットに SD カードを挿入します。
- ④ ディスプレイ画面の System を選択します。
- ⑤ Firmware Update を選択します。
- ⑥ 画面上に表示される指示に従って進んで下さい。(MULTIAMP 本体フロント左上の PAD スイッチを押します→Enter を押します→アンプ本体の電源を切り、約 5 秒間待って再び電源を入れてください。これでアップデートが完了です)

*ファームウェアをアップデートする際にファクトリー・プリセットのバージョンアップも可能な場合があります。ファクトリー・プリセットのインポートについては、下記(ユーザー・プリセットの項③④⑤)の手順で取り込みます。

■ユーザー・プリセットのインポート

- ① DV MARK のウェブサイトからアップされたユーザー・プリセットをコンピューターにダウンロードしてください。
RAR ファイルを解凍します。(推奨解凍ソフト：Lhaplus 1.59 等)
- ② SD カードにドラッグ&ドロップで取り込みます。
(この際、SD カードのフォーマットが FAT 32 format であることをご確認ください)
- ③ MULTIAMP 本体フロントにある SD カード・スロットに SD カードを挿入します。
- ④ ディスプレイ画面の System を選択します。
- ⑤ FILE → Recall from SD → 保存先のバンクを選択して終了です。

*保存先の USER ファイルは、ダウンロード時のファイル名を USER1～5 のいずれかに変更することで、指定することができます。

例) ダウンロードファイルを解凍した際、ファイル名が USER5 になっている場合、アンプ本体のバンク USER5 を保存先に指定して取り込みます。USER1 に取り込みたい場合は、ファイル名を USER1 に変更して、②～⑤の手順で実行します。

■MULTIAMP のユーザー・プリセットを SD カードに保存

- ① MULTIAMP 本体フロントにある SD カード・スロットに SD カードを挿入します。
(ご使用になる SD カードが FAT 32 format であることをご確認ください)
- ② ディスプレイ画面の System を選択します。
- ③ FILE → Store to SD → 保存するファイルを選択して終了です。

注) ユーザーバンクを指定して新たなプリセットを取り込む際は、上書きとなり元のデータが消去されますので、既存のデータを SD カードに保存しておくことをお勧めします。



MULTIAMP (Ver 2.1 / 1.61)

スロット一覧表

スロット選択なし (スロット未使用)	
■ NONE	
アンプモデル	
■ Amplifier	
アンプ	パラメータ
○ CH1	
Triple 6 CH1	パラメータ無し
Darkface '65 (US)	パラメータ無し
Recto (US) CH1	Mode (Push, Clean)
Bassface '59 (US)	パラメータ無し
SloDrive (US)	パラメータ無し
Ecstasy CH1	Pre EQ (Normal, Bright1, Bright2) / Boost (On, Off) / Damping (Tight, Medium, Loose)
UK-45	パラメータ無し
○ CH2	
Triple 6 CH2	Mode (High Gain, Normal)
Top30 (UK)	パラメータ無し
SloDrive (US)	パラメータ無し
Rock '75 (UK)	パラメータ無し
Ecstasy CH2	Pre EQ (Normal, Bright1, Bright2) / Boost (On, Off) / Plexi (On, Off) / Structure On, OFF) / Damping (Tight, Medium, Loose)
○ CH3	
Triple 6 CH3	Mode (High Gain, Normal)
Recto (US) CH3	Mode (Raw, Vintage, Modern)
Rock 900 (UK)	パラメータ無し
SloDrive (US)	パラメータ無し
HeaVy 51 (US)	パラメータ無し
Ecstasy CH3	Pre EQ (Normal, Bright1, Bright2) / Boost (On, Off) / Plexi (On, Off) / Structure (On, OFF) / Damping (Tight, Medium, Loose)
Gun 50	パラメータ無し



MULTIAMP (Ver 2.1 / 1.61)

スロット一覧表

エフェクター	パラメータ
Tube 9 (DST)	Drive (0.0 ~ 10.0) / Tone (0.0 ~ 10.0) / Level (0.0 ~ 10.0)
Blues Drive (DST)	Drive (0.0 ~ 10.0) / Tone (0.0 ~ 10.0) / Level (0.0 ~ 10.0)
Distortion+ (DST)	Drive (0.0 ~ 10.0) / Tone (0.0 ~ 10.0) / Level (0.0 ~ 10.0)
MetalTone (DST)	Drive (0.0 ~ 10.0) / Bass (0.0 ~ 10.0) / Mid (0.0 ~ 10.0) / Treble (0.0 ~ 10.0) / Level (0.0 ~ 10.0)
Fuzz Race (DST)	Drive1 (0.0 ~ 10.0) / Tone1 (0.0 ~ 10.0) / Level1 (0.0 ~ 10.0)
CHR-5 (CHR)	Speed (0.2 ~ 3.7Hz) / Depth (0.0 ~ 100%) / Low (0.0 ~ 100%) / High (0.0 ~ 100%) / Wet (0.0 ~ 100%)
Wave Flanger (FLG)	Speed (0.2 ~ 3.9Hz) / Depth (0.0 ~ 100%) / Delay (0.50 ~ 6.00Sec) / Wet (0.0 ~ 100%)
Chorus Phaser (CHR)	Speed (0.1 ~ 10.7Hz) / Depth (0.0 ~ 100%) / Wet (0.0 ~ 100%)
JC Vibrato (JCV)	Speed (0.9 ~ 20.0Hz) / Depth (0.0 ~ 100%) / Level (-40.0 ~ 12.0dB)
Digital Phaser (PHR)	Speed (0.1 ~ 10.0Hz) / Center (200 ~ 3990Hz) / Feedback (0.0 ~ 100%) / Stage (2,4,6,8,12stg) / Wet (0.0 ~ 100%)
Reverb (RVB)	Reverb (0.0 ~ 100%) / Time (0.50 ~ 19.9Sec) / Colour (2000 ~ 9990Hz) / Low Cut (30.0 ~ 1500Hz) / Diffusion (0.0 ~ 100%) / Shape (0.0 ~ 100%) / Level (-36.0 ~ 12.0dB)
D-Delay (DLY)	Time (10.0 ~ 2600mSec) / Regen (0.0 ~ 100%) / Stereo (0.0 ~ 100%) / Mix (0.0 ~ 100%) / Level (-36.0 ~ 12.0dB)
Pattern Dly (DLY)	Pattern (1 ~ 64) / Time (10.0 ~ 2600mSec) / Regen (0.0 ~ 100%) / Mode (Echo, Split) / Colour (600 ~ 17990Hz) / Wet (0.0 ~ 100%) / Level (-36.0 ~ 12.0dB)
Volume Pedal (VOL)	Pedal (0.0 ~ 100%) / Range (-96.0 ~ -10.0dB)
Noise Suppressor (NSS)	Thresh (-72.0 ~ -18.0dB) / Release (0.10 ~ 0.80Sec) / Attack (0.0 ~ 5.0mSec)
Amp Tremolo (TRM)	Mode (American, British) / Speed (0.3 ~ 22.2Hz) / Intensity (0.0 ~ 10.0dB)
RSS Compressor (CMP)	Sustain (0.0 ~ 24.0dB) / Release (0.10 ~ 2.50Sec) / Level (-24.0 ~ 0.0dB)
Auto Wah (FIL)	Pedal (0.0 ~ 100%) / LFO Speed (0.3 ~ 22.2Hz) / LFO Depth (0.0 ~ 100%) / Sensitiv (0.0 ~ 100%) / Release (0.06 ~ 1.50Sec) / Mode (LPF, BPF, HPF) / Polarity (Normal, Inverse) / Level (-39.1 ~ 12.0dB)
Send / ReTrun (SND)	Level (0.0 ~ 100%) / Mode (Serial, Parallel)
Par EQ (EQ)	EQ1 Gain (-18.0 ~ 18.0dB) / EQ1 Freq (30.0 ~ 19990Hz) / EQ1 Q (0.2 ~ 7.9) / EQ1 Mode (Peaking, L Shelf, H Shelf) / EQ2 Gain (-18.0 ~ 18.0dB) / EQ2 Freq (30.0 ~ 19990Hz) / EQ2 Q (0.2 ~ 7.9) / EQ2 Mode (Peaking, L Shelf, H Shelf)
MW Octaver (OCT)	Dry (0.0 ~ 10.0) / Octave -1 (0.0 ~ 10.0) / Octave -2 (0.0 ~ 10.0) / Tone (0.0 ~ 10.0)
スピーカーキャビネット	
SPEAKER (CAB)	Respire (On, Off) / HPF (On, Off) / LPF (On, Off) / Level (-6.0 ~ 6.0dB) / Phase (Normal, Reverse) / Mic Mod (Gold414AT, Tech4033JAP, 451AT, 421AT, RadioE116US, 57US, 58US, Berlin87DE) / Cab Mod (1x12 Clts, 4x12 Green, 4x10 Tweed, 4x12 Vintag, 2x12 Dark, 2x12 Top30, 4x12 Hvy51, 4x12 Modern, 4x12 Angel, C-BS 112) / Mic Pos (In Axis, Off Axis, Far)